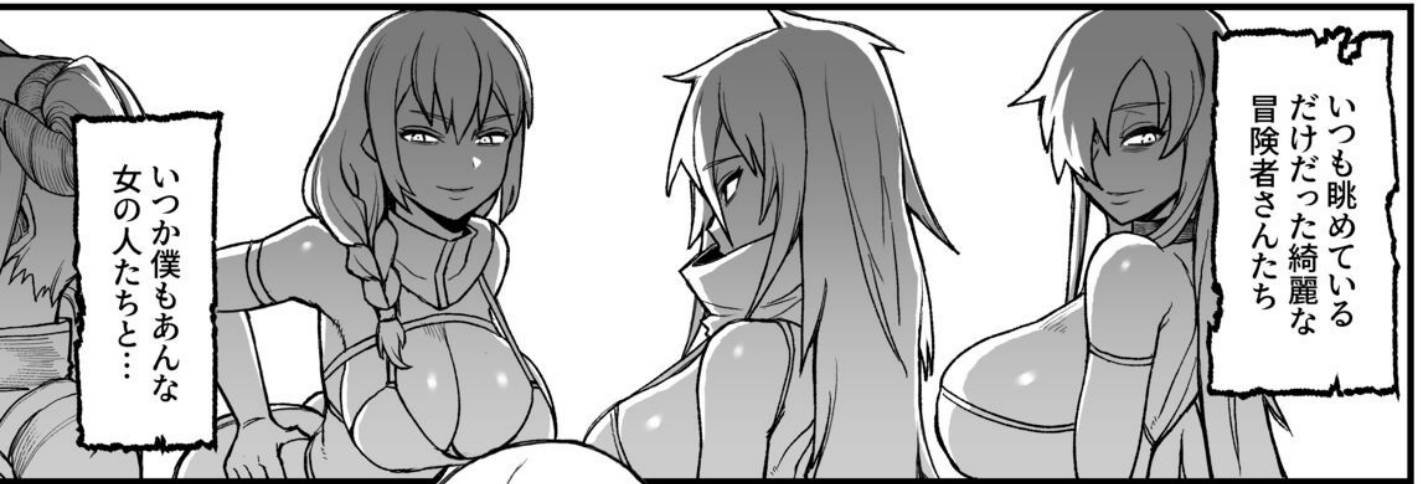




彼女の身体を弄び
色を覚えた
僕の性的欲求は

止まらなかった



いつも眺めている
だけだった綺麗な
冒険者さんたち

いつか僕もあんな
女の人たちと…



今から…
いいかな？

はい…

この目の前の美しい
奴隷の女性を買うまでは…



こんなことばかり
考えていた…

その…



僕はまた彼女の
喉奥に精液を
流し込んだ

あっ...あ...
飲んでっ...

全部飲めっ...

ん...

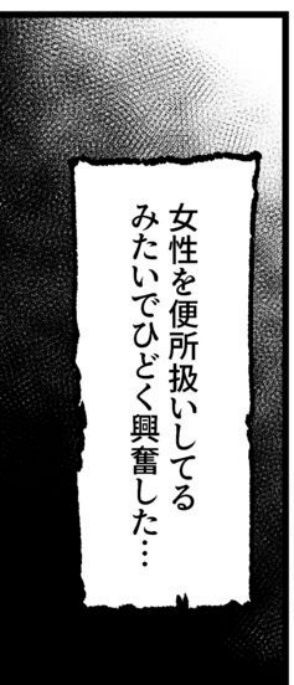
ちんちんを舐められると
僕は射精のことしか
考えれなくなった...



あっそれっ
それ気持ち良いっ



でっ射精る...っ
ちゅぽっ



女性を便所扱いしてる
みたいでひどく興奮した...

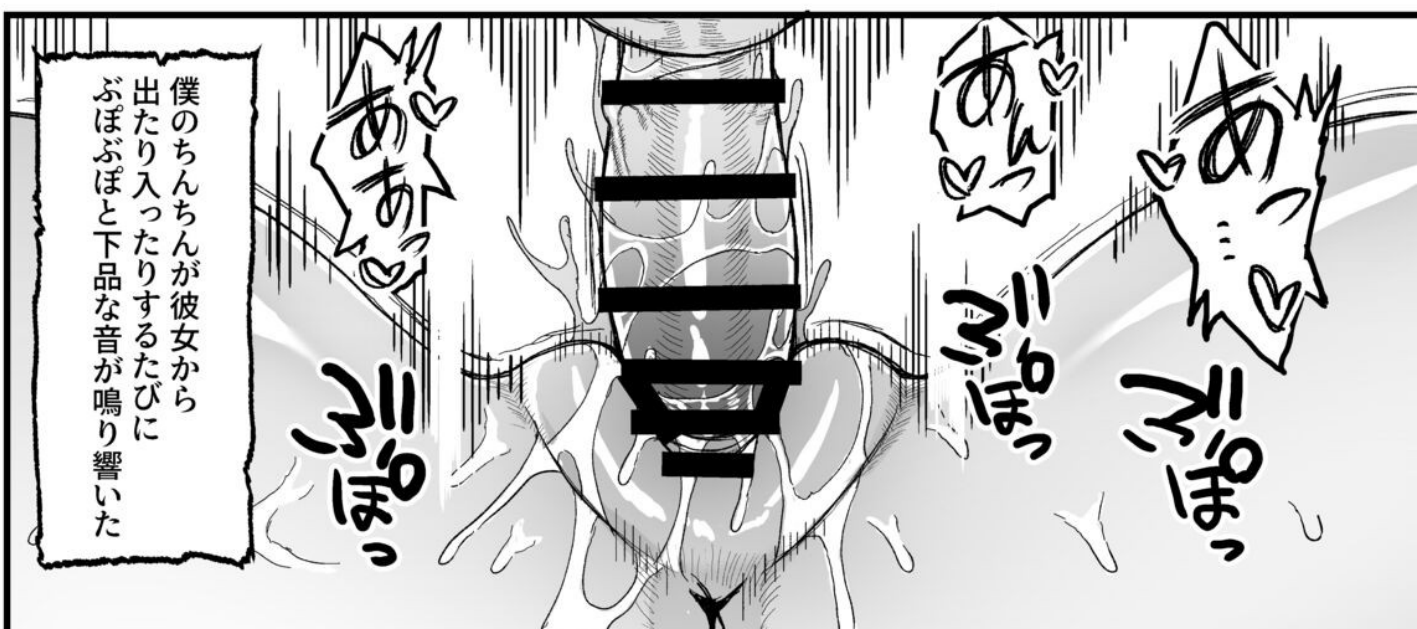


今日も...
ありがとうございます...



彼女は当然のように
ごくごくと精液を
飲んでくれた

んっ...
はぁ...
はぁ...
はぁ...





何度もちんちんを出し入れして
膣内をこする…その度に
彼女は嬌声をあげていた

あッ…あッ…

ご主人…さま…



一心不乱に腰を打ち付け
彼女の胸を舐め回した

仕事なんてどうでもいい…
今はただこの目の前の女を
犯したいという欲求だけだった

